

交換留学プログラム 2019 年度修了演奏会

2020 年 2 月 6 日 中目黒・代官山キャンパス



シベリウス・アカデミー（フィンランド）から来た Tomas Aaron Viljasalo（トマス アーロン ビルヤサロ）さん



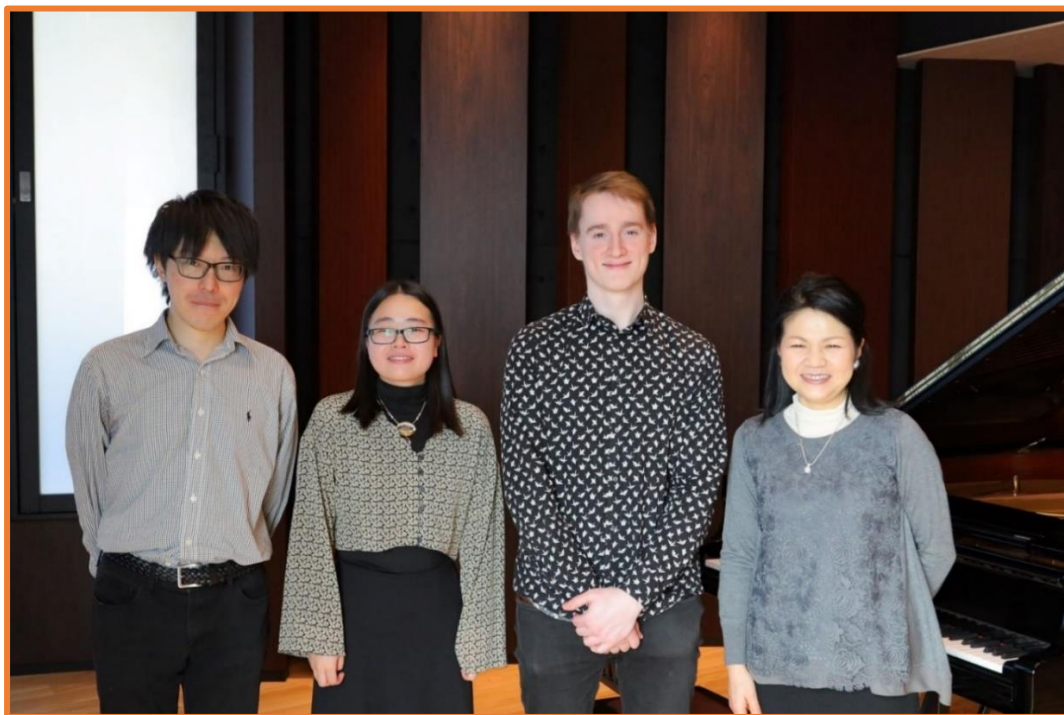
リセウ高等音楽院（スペイン）から来た Wanjun Lu（ル ワンジュン）さん

東京音楽大学は、ヨーロッパの名門音楽大学（2020 年 2 月現在 13 校）と提携し、交換留学・短期留学プログラム（奨学金制度あり）を設けています。毎年、多くの学生が当プログラムを利用した海外留学をとおりて見聞を広め、音楽活動の幅を広げています。一方、海外提携校からの外国人学生も多く、「東京音楽大学でしか学べない貴重な経験ができる」と留学経験者のみなさんが口をそろえて言います。2 月 6 日、本学に来ている二人の外国人学生が留学プログラムのひとつとして習得した邦楽（箏）と自身の専攻楽器・ピアノの演奏を披露しました。

前半一曲目は、シベリウス・アカデミー（フィンランド）から来た Tomas Aaron Viljasalo さんによる『さくら』より（藤井凡大）。続いて、リセウ高等音楽院（スペイン）から来た Wanjun Lu さんによる『日本のわらべ唄』より（野村正峰）。三曲目は、本学大学院生の増田大輔さんも加わって、三人による『六段の調』（八橋検校）。週2回半年間のレッスンでこれほど上達できるのかと感心してしまうほどの演奏に温かい拍手が送られました。

休憩をはさんで、後半は二人の専科であるピアノ演奏。レッスンで仲よくなった友人も応援に駆けつけてくれました。箏の指導にあたった内藤久子客員准教授は、「二人はいつもニコニコとレッスン室のドアを開けて、とても真面目に取り組んだので、他の学生たちも驚くほど上達は速かったです。八橋検校とバッハは国は離れていますが隣接した時代に活躍し、共に尊敬すべき偉大な音楽家です。ジャンルを越え、ピアノも箏も同じように学べるのは、この大学ならではの貴重な経験で、今後の音楽的成長に活かされると信じています。半年でしたが、私もうれしく教え甲斐がありました。」と終演の挨拶をしました。

本学は、異なる文化と触れあうことをとおして音楽活動の幅を広げ、広い視野をもった人材の育成を積極的に推進しています。留学プログラムをチェックして興味あるものにぜひチャレンジしてみてください。（広報課）



『六段の調』を演奏した三人、左から増田大輔さん（院2年）、Wanjun Lu さん、Tomas Aaron Viljasalo さん
右端は指導に当たった内藤久子客員准教授